

スマートフォン・タブレット端末の 福祉分野での活用研究会

活動紹介

平成25年度 構成メンバー

情報科学芸術大学院大学(IAMAS)

日本福祉大学

岐阜経済大学

岐阜県情報技術研究所

だるまジャパン合同会社

特定非営利活動法人バーチャルメディア工房ぎふ

頸髄損傷者連絡会・岐阜

岐阜県立岐阜本巣特別支援学校

岐阜県立岐阜希望が丘特別支援学校

岐阜県教育委員会特別支援教育課 自立支援係

岐阜県情報産業課

岐阜県労働雇用課

公益財団法人ソフトピアジャパン

特別支援学校における タブレット端末の就労支援への活用の可能性調査事業

スマートフォン・タブレット端末の福祉分野での活用研究会



何をした

- ・ 岐阜本巣特別支援学校の体験学習授業で喫茶店を運営
- ・ 接客業務をタブレットアプリで支援
- ・ 厨房係とホール係のうちホール係向けのアプリ

これまでの問題点

- ・ 紙の伝票による接客の問題点
- ・ コミュニケーションをとりながら注文を記入が難

アプリによる支援

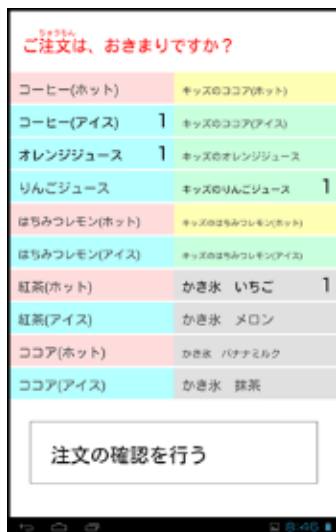
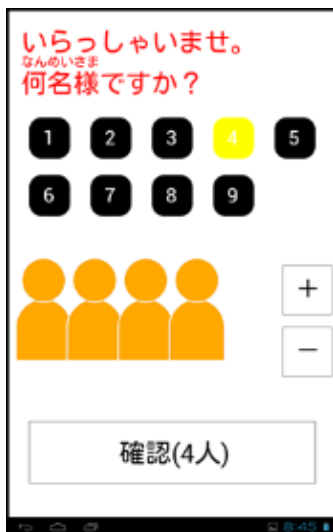
- ・ 接客業務の全体像を把握できる
- ・ 客とのコミュニケーションの支援になる
- ・ 記入漏れを防止できる

結果

- ・ コミュニケーションに不安を持つ生徒が接客が可能に

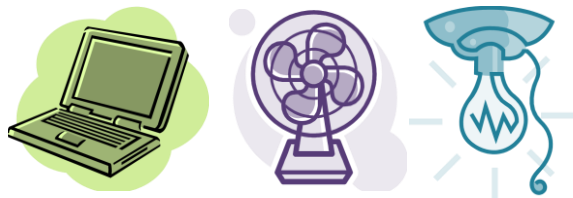
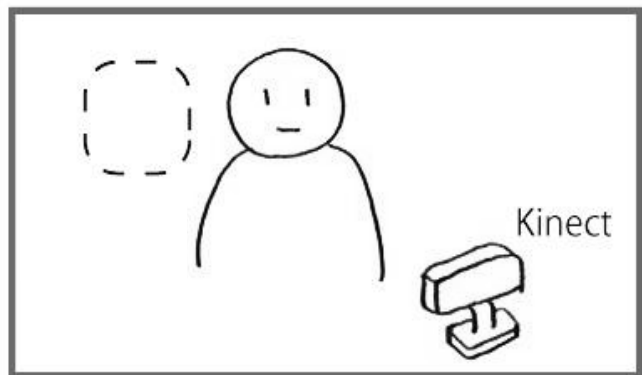
間接的な効果

- ・ コミュニケーションに自信
- ・ 積極的に人と接するように変化



特別支援学校におけるOAKの活用支援

スマートフォン・タブレット端末の福祉分野での活用研究会



何をした

- ・ 岐阜希望が丘特別支援学校の個別学習にOAKを導入

OAK※とは

- ・ 利用者の動きをセンサ(Kinect)で認識するシステム
- ・ 肢体不自由のある方の手軽なスイッチ操作に適する

利用者

- ・ 肢体不自由のある児童
- ・ 過剰な筋緊張により従来のスイッチの操作が困難

結果

- ・ 絵本ソフトの他・扇風機などを身振りで無理なく操作
- ・ 学習姿勢もより積極的に

今後の展望

- ・ OAK活用事例を蓄積し、応用の可能性を探る

※OAKは東京大学先端科学技術研究センターと日本マイクロソフト株式会社が共同開発したものです

特別支援学校向け教育補助タブレットアプリケーションの再開発プロジェクト

スマートフォン・タブレット端末の福祉分野での活用研究会



背景

- 岐阜県内の特別支援学校教員が教育補助ソフトを開発
- パソコン向けソフトとしてインターネット上で配布

何をした

- 教育補助ソフトをタブレット端末用として再開発
- Android, iOS共にHTML5を活用
- オフライン環境でも利用できるバージョンも準備

予想される効果

- 機種を限定せず幅広い端末での利用が可能に
- どこでも利用が可能

今後の展望

- 利用者が教材コンテンツを作成できる機能を追加
- ネットワーク上で共有し岐阜県内の学校で利用可能



障がい者向け情報機器ロコミ共有プロジェクト

スマートフォン・タブレット端末の福祉分野での活用研究会

XXアプリ

メリット:このアプリは、情報機器の制御をスマホで利用することができるようになった。..

ロコミ



障がいの種別・程度+α



何をした(してる)

- ・ オンライン上で情報機器のロコミをブログで共有
- ・ SNSの仕組みと連携して幅広く共有

背景

- ・ 勉強会で他人がどんなアプリを活用しているか知りたい
- ・ 通常のロコミでは自分が利用できるか判断が難
- ・ SNSを利用している人が多数

特徴

- ・ 障がいの種別や程度などを記述
- ・ 生活スタイルなども一部共有して判断しやすく
- ・ 実名登録するFacebookを利用

予想される効果

- ・ 判断可能なロコミ情報を共有
- ・ Facebookにより簡易なアクセス制限

今後の展望

- ・ オンラインとオフライン(勉強会)の会を併催